

〈連載〉
中川大介／西野鷹志
庄司証／長谷山裕一
米田哲平／夏井俊介
國立大貴

特集

「SDGs (エスディー・ジーズ)」を 知っていますか。



TAKE FREE

毎日の暮らしが、世界との交流の場。

(一財) 共立国際交流奨学財団が管理・運営するつつじヶ丘男子学生会館、相模大野学生会館は、日本人学生・留学生のための学生寮です。日本人学生はもちろん、外国人留学生と生活をともにする中で、互いの理解を深め、友情を築き上げていくことで、国際人としての意識も高まり、学生生活がより豊かなものになることでしょ。

入居者
募集中



両館ともに、24時間管理人常駐で食事つき、家具・インターネット
ト完備で、初めての一人暮らしでも安心してご利用できます。

一般財団法人 共立国際交流奨学財団



〒101-0021
東京都千代田区外神田 2-18-3
TEL. 03-5295-0205 平日 9:00~17:30
www.kif-org.com

設立
趣旨

アジア諸国からの前途有望な留学生に、いささかなりとも奨学援助の手を差し伸べることを決意し、国際友好親善ならびに明日のアジアを建設する原動力となるべく、人材の育成を目的とする。

特集 「SDGs (エスディー・ジーズ)」を知っていますか。

関澤春佳さんに聞く
SDGsってなんだろう。 — p5

SDGsを学ぼう ●HIFが連続勉強会開催中! — p7

石山千賀子さんに聞く
社会の課題に向き合って。 — p8

丸藤 競さんに聞く
函館でSDGsを広めるために。 — p10

安達信彦さんに聞く
「感じのよい暮らし」を地域と世界で。 — p12

小さな行動を続けることで、
世界をほんの少し変えられるかもしれない。 — p14
@ h Q U E S T I O N N A I R E

函館市近郊のSDGsな取り組み
こんなコト・モノがSDGs!?を感じて、
知ってもらえるイベント開催&出店者募集! — p16

街に関する一考察 — ● 長谷山裕一 — p19

人と水と空と森の話 — ● 中川大介 — p20
浦潮逍遙

昔の子ども、今どきの子ども — ● 庄司 証 — p23
ローカルルール

連載 米田哲平/夏井俊介/國立大喜 — p24-25

【ライカはゆく】 — ● 特別寄稿/第14話 — p26
粹な大将
西野鷹志/文・写真

H I F インフォメーション I N F O R M A T I O N — p28

本誌設置場所 — p30
FROM EDITOR・奥付



毎年、6月になるとあちこちで運動会が行われ、子供たちのにぎやかな声が響きわたる。子どもが元気なのは、今も昔も変わらないが、運動会の進め方は少し変わっている。徒競走は、同じくらいの速さの子たちと走るので、大きな差はつかない。玉入れは、2回だから引き分けが多くなる。お昼は保護者の来られない子どもがいたらと、子どもたちは教室でお弁当に、親は家に戻るか、空き教室で別々に食べるという。

なるほど、子どもたちが自己肯定感を失ったり、不公平を感じたりすることも少なくない。勝ち負けで一喜一憂することもない。いい意味で、みんなが平等であり、みんなが仲良くすることでの平和な社会の一面なのかもしれない。

2030年に向けて国連が掲げる「SDGs=持続可能な開発目標」が目指すのは「誰ひとり取り残さない」社会の実現。それは、運動会のように競争から、共生の社会を描いているのか。あるいは、競争社会の中で、最低限の生きる権利を守ってゆくことなのか。今回の特集で取り上げたさまざまな人の話を通じてSDGsへの理解を深め、「自分たちのできること」に取り組んでゆきたい。

(一財)北海道国際交流センター(HIF)
専務理事 池田 誠

人をつなぐ、笑顔をつなぐ。
Connecting people and bringing smiles.



函館から世界へ——。JTBは地球を舞台に、あらゆる交流を創造し続けます。

株式会社JTB

【北海道事業部 函館オフィス】

〒040-0011 北海道函館市本町6-7 第1ビル1階

TEL. 0138-56-1711 FAX. 0138-56-6898

【ホームページ】<http://www.jtb.co.jp/hokkaido/> 【会社概要】<http://www.jtbcorp.jp/jp/>



「SDGs (エスディー・ジーズ)」を知っていますか。

特集

「Sustainable Development Goals」。

「持続可能な開発目標」と訳される。

貧困や差別の解消、男女の平等、環境負荷の低減、生物種の絶滅防止、
気候変動への対応一。

掲げられた17のゴールはどれも地球規模で大きいけれど、
そこへの到達を可能にするのは市民一人一人の日々の行動の積み重ねだ。

私たちは何を目指し、どう動くべきなのか。

さまざまな人たちの話から考えてみたい。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



関澤春佳さんに聞く

SDGsってなんだろう。

「SDGs (持続可能な開発目標)」とは、どんなものなのだろう。その実現に取り組む約80の団体が加盟している一般社団法人「SDGs市民社会ネットワーク (SDGsジャパン)」で勤務した経験を持ち、現在はフリーランスで活動する関澤春佳さんに、SDGs誕生の経緯や広がり、SDGsが達成期限とする2030年の日本と世界の姿などについて寄稿してもらった。

持続可能な社会に向け、
世界は動き出している

2015年9月、米ニューヨークの国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」にて「持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development

Goals)」が国連加盟国193カ国の全会一致で採択された。世界の貧困を半減させようと2000年に八つの目標を掲げたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継となるSDGsは、貧困や教育、環境問題など、2030年までに国際社会が達成すべき17の目標と169のターゲットが設定されている。SDGsには、これまでになかった特徴がある。一つ目は、複雑に絡み合っている社会・環境・経済の問題を、統合的に解決する重要性が示されていること。次に、途上国だけでなく、先進国の課題も含めた目標になっていること。そして課題解決に向けて、国際機関、政府、NGO、企業の主体的な参画と、分野を超えた協働を期待している点である。

SDGsを広げるために

SDGsは、開発と環境の目標を統合し、政府や民間企業、専門家や市民社会など多岐にわたる分野の人たちの意見を取り入れながら、約2年の議論を経て作られた。つまり、従来のトップダウンではなく、ボトムアップから生まれた世界の共通目標であり、みんなで作ったSDGsというわけだ。



せぎざわ・はるか／大学在学中、「児童労働、人権、異文化」をテーマに世界15カ国でフィールドワークを行う。広報の重要性を実感し、卒業後は広告代理店に入社。その後NGOに転職し、一般社団法人SDGs市民社会ネットワークでコミュニケーションコーディネーターを務める。セクター間連携や多岐にわたる分野の広報に携わる傍ら、PR会社に入社。2018年からフリーランスとして、ソーシャル分野に特化した広報活動に従事。

日本各地でSDGsの普及啓発が行われている。2017年7月には、「国連にピコ太郎さんが登場！」というニュースが日本中で話題となったことを覚えていただろうか。国連総会で日本政府がSDGs達成に向けて取り組み事例を発表する際、世界的に有名なピコ太郎さんを起用したのだ。しかしながら、まだまだ日本におけるSDGsの認知度は15% (電通調査... 2018年時点) と低いのが現状である。

今年6月のG20大阪サミットや8月の横浜でのTICAD7 (アフリカ開発会議) などの国

SDGsを学ぼう ●HIFが連続勉強会開催中！

世界の貧困問題や人権問題には関心のなかった若者にも、もっとよくSDGsを知ってほしい、行動してほしい。そんな願いから、北海道国際交流センターは今年5月、センター内の大会議室を会場に、SDGsについて学ぶ参加無料の連続勉強会をスタートさせた。

1回目の講師は北海道新聞記者の関口裕士さん。5月20日に開催し、28人が参加した。関口さんは「SDGsのことは伝えるのが難しい」としながらも、エシカル協会代表理事の末吉里花さん、フェアトレードタウンの仕掛け人の一人である北星学園大学の萱野智篤さんなど、SDGsのさまざまなテーマに関わる人たちを紹介してくれた。印象的だったのは、関口さんが紹介した次の言葉。「どうやって直すかわからないものを壊し続けることはやめてください」。1992年にブラジル・リオデジャネイロで開かれた「地球サミット」で、当時12歳のカナダの少女セバン・スズキさんが行ったスピーチの一節だ。その言葉が問いかけるものは、今も変わらない。

第2回勉強会は6月2日。東京の認定NPO法人ACE（エース）から、共同創業者で事務局長の白木朋子さんと経理・

総務チーフの坂口志保さんを講師に迎え、15人が参加した。

ACEは「児童労働のない世界」を目指し、インド、ガーナ、日本で住民支援、学校改善、啓発などの活動をしてきたNGO。講師の2人は、活動を通じて教育を受けられるようになった途上国の子どもたち、コミュニティを変革した大人など、出会った人々から見えてくるのは「人生は選択でき、変えることが

できる」ということだと強調。途上国の人たちと日本の私たちが互いに人生の目的を探すヒントをもらい合い、たくさんの「チェンジ(変革)」が繋がれば、社会や世界はより良い方向に向かうのではないだろうか、と語られた。

第3回は下記日程で開く予定。今後もさまざまな形でSDGsを学ぶ機会を設けるHIFの活動に、ぜひご参加ください。 ▲▲

第3回 SDGs 勉強会

【日時】2019年7月19日(金) 13:30~15:00

【場所】北海道地域交流まちづくりセンター 2階研修室A
(函館市末広町4-19)

【参加者】30名 【参加費】無料

【講師】大崎美佳さん

環境省北海道環境パートナーシップオフィス(EPO北海道)北海道全域でSDGsを広げる活動が続ける大崎さんが、全国の取り組み状況や北海道の活動事例をも紹介し、これからの地域活動のアドバイスをします。



1回目の勉強会の様子。中央が関口さん。



際会議でもSDGsは大きなテーマである。また9月には、SDGsの進捗状況を共有するために4年に一度、世界の首脳が集まる国連総会がニューヨークで予定されている。

それぞれの分野での動き

2016年5月のG7伊勢志摩サミットを契機に、安倍晋三首相をトップとしたSDGs推進本部が設立された。12月には

「SDGs実施指針」が発表され、子どもの貧困や気候変動対策など日本が取り組むべき八つの優先課題が示されている。

2017年には、企業や地方自治体、NPO/NGOなど団体等の先駆的な取り組み事例を表彰する「ジャパンSDGsアワード」が創設された。日本全国で優れた事例を見つけて、共有しようという動きが各方面で始まっている。また、持続可能な経済社会システムを実現する都市・地域づくりを目指す「SDGs未来都市」では、29都市中、道内からは北海道、札幌市、二セコ町、下川町が選定された。

また、特に先導的な取り組みとして10事業が「自治体SDGsモデル」と認定され、二セコ町と下川町が選ばれている。

地球1・5個分の生活から脱却し、「地球1個分の生活」に！

今の私たちの生活は、地球

1・5個分の資源を消費して成り立っている。例えば、水産資源の乱獲問題。ウナギやマグロが絶滅危惧種に指定されていて、近い将来、私たちの食卓から魚が消えるかもしれない。今、私たちがすぐにできることの1つは、「海のエコラベル」と呼ばれるMSC認証マーク付きの商品を購入することだ。SDGsの目標14「海の豊かさを守ろう」に貢献することが出来る。その他の問題解決にも商品を購入する際に、認証マークがあるものを選ぶことで、未来の私たちの生活を豊かにしてくれる。

2030年の世界と日本は、どうなっているのでしょうか？

私たちは、これまでの大量生産・大量消費の時代を終わらせなければならぬ。貧困のない、持続可能な社会の実現を目指し、一人ひとりの行動を変えていくことが求められている。これまでの経済成長のやり方では

地球が減びてしまう。SDGsが含まれる文章の正式名称は、「我々の世界を変革する…持続可能な開発のための2030アジェンダ」であり、「変革」というメッセージが強く打ち出されている。

SDGs達成に向けて、個人が主体となり、行動すること、社会が変わると私は確信している。私たちの暮らしに本当に必要なことはなにかを考える。食べるもの、身につけるものが、どこから来たのか、どのように作られているのか、関心を持ち、目に見えないものを想像する。困っている人に手を差し伸べられる心の豊かさを持つ。一人ひとりのそうした行動が、さまざまな好循環を生み、私たち一人ひとりの幸せにつながっていく。SDGsは、現代社会に生きる私たちに、これまでの生活を振り返り、見落としていた大切なことに気づく機会を与えてくれている。

石山千賀子さん（函館YWCA）に聞く

社会の課題に向き合って。

日本でYWCA（キリスト教女子青年会）が生まれたのは1905年（明治38年）。女性の自立を目指した活動は、100

年を超えて今なお脈々と受け継がれている。そのYWCAが発行するニュースレターの750号（2019年6月）で、「未



来を開く17の扉 始めよう！SDGs」が5ページにわたって特集された。SDGsが掲げる17の目標の一つに「ジェンダー平等を実現しよう」があるが、この項目を入れるために世界のYWCAも尽力したという。この項目が目指す「世界に变革をもたらす若い女性のリーダーシップを実現する」は、まさに今日的なスローガンだ。

四つのポイント

特集では知っておきたいSDGsの四つのポイントを挙げていく。①みんながみんなのためというプロセスを大切にすること②途上国だけでなく、日本社会も含めて全ての国が取り組みの対象であること③すべての目標はつながっており、人間、地球、豊かさ、平和、パートナーシップの英語の頭文字をとって5つのPとも呼ばれていること④柔らかな発想でつながり、一方通行や上下関係ではない緩やかなつながりを意識してい



いしやま・ちかこ／秋田出身。ネパール2年、パリ4年などを経て、13年前に北海道へ移住。七飯町大沼在住。

ることだ。

函館のYWCAは遺愛学院近くの閑静な住宅街の中にある。300坪の広々とした敷地。文化の香りのする場所だ。1949年の設立から70年。この5月、会館をリニューアルして新たな時代を迎えようとしている。2013年から総幹事を務める石山千賀子さんは、リニューアルについてこう語る。「札幌のNPO法人で活動する東田秀美さんの福島原発に関する講演を聴きに行った際、函館YWCAの建物に興味を持ってくれたんです。建物の中のドアやつくりを見て、これはお宝の

建物ですと絶賛してくれて」。東田さんは、1927年に札幌で建築された「旧小熊邸」を「ろいず珈琲館旧小熊邸」として復活させた仕掛け人。1997年に「NPO法人旧小熊邸倶楽部」を設立し、北海道の地域資産の保存活用に取り組んでいる人だ。東田さんの勧めもあって2016年度には会館の有形文化財登録を果たした。活動の拠点として使い続けてきた会館を認められたことで、自分たちの会館と活動の今後を見直そうとい

う機運が生まれた。文化財登録でつながった道南ヘリテージマネージャーの一人富樫雅行さんと出会い、会員の総意で改築の話は具体化し、資金を広く募り、実現へと進んだのだという。「もともとYWCAは幼児教育から始まって障がい児なども含めた統合教育に取り組み、1970年代には公害や安全な食糧物について考えるなど、社会の関心事に関わってきました。英会話教室も開いています。ただ言葉を覚えるのではなく、

フィリピンやウガンダ出身の先生から多文化共生社会を学べるような内容も入っています。」と石山さん。

70年前から女性を中心になって活動した函館YWCAは先進的な取り組みだっただろうし、常に社会課題に向き合う姿勢はエネルギーを感じさせる。子ども向けのバレエ、ピアノ、習字といった定番の習い事から、親子で科学を学ぶなど活動は幅広い。大人向けの講座もストレッチ、料理教室、音楽会と、多くの人を巻き込んでいる。毎年、多くの人が集まるバザーは函館YWCAのファンを増やす一大イベントだ。

女性の視点から

一方で若い女性の活動への巻き込みなど、なかなかうまくいかないこともある。イベントを告知する方法がWEBやSNSの活用シフトするといった時代の変化の風を受けながらも、

函館YWCAは粘り強く活動を続けている。石山さんは、「男性だけで決めるのではなく、女性の視点も採り入れると新しいことが見えてくるのではないだろうか。あらゆるバックグラウンドの人が身近な小さなことから関わっていくことで、社会を変える力になると思います。平和、人権、環境に関する問題に女性の視点から取り組む函館YWCAが目指すものは、SDGsが目指す方向と同じなのかもしれないですね」と語る。

YWCAの活動に参加するのは会費を納める女性たち。「でも、賛助金で応援してくれたり、会友になったりと、男性が参加する仕組みもあるんですよ」と石山さん。SDGsの17の目標の中でも、なかなか進まないといわれるジェンダーに関する目標の達成に向けて活動する函館YWCAの取り組みに期待したい。



丸藤 競さん（函館市地域交流まちづくりセンター）に聞く 函館でSDGsを広めるために。

「函館市民の皆さんに、まずはSDGsという言葉を知ってもらいたいですね。そう語る丸藤競さんがセンター長を務める函館市地域交流まちづくりセンターは、函館市民に「まちセン」

と親しまれる存在だ。2019年のセンターの合言葉は「SDGsおし」。館内のいたるところでSDGsに関する手作りのクイズやパネルを展示し、SDGsの情報を発信している。

互いをつなげる

センターは、市民交流やNPOなど市民活動の支援、移住・定住者への支援、観光案内といった地域情報の発信を通じて、函館のまちづくり活動をサポートしている。これらの活動は、SDGsのゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」に合致していると丸藤さんは言う。自身はこれまで、若者のまちづくり団体「活力ユニット」やNPOを支援する団体を

立ち上げるなど、市民活動の連携と活性化を目指して動いていた。

こうした経験から、丸藤さんは「今までは、『それぞれはそれぞれ』という感じだった。SDGsは互いをつなげやすくし、違う分野の人と課題を一緒に考えていくことが大切だと感じさせてくれる。市民、学生、企業、自治体にもアピールしやすく、共感を得やすい良いツールにな

っているのでは」と感じている。SDGsを発信する上で、気を付けなければならないのは「魔女狩り」をしないこと」と丸藤さんは言う。例えばプラスチックのストローは環境への影響が問題視されているけれど、ストローを使っている人を批判したり、使っているお店には行かないなど不買運動みたいことをしたりしてはいけない、ということだ。「相手に押し付けてはいけない。『自分は使わない』で良いのです。個々が誰かを苦しめることや、仲たがいをしては、SDGsが目指す『誰一人取り残さない社会』をつくるこ



まるふじ・きそお／1964年、札幌生まれ。函館で市民活動やまちづくり活動に取り組む、2007年から函館市地域交流まちづくりセンター長、生活支援コーディネーターを兼任する。また市の各種委員のほか、函館の地域FM「FMいるか」のパーソナリティを20年間務める。



とができなくなってしまうでしょう。センターを訪れる学生にも伝えている大切なことです」。

地域で広がり

センターが毎年7月に開く

「NPOまつり」では今年、SDGsの17アイコンを使って各団体の活動内容を来場者へ発信する。子ども向けのSDGsに関するゲーム体験なども企画しているという。「函館に限らず、全国的にもSDGsの認知度は



低い。企業にはSDGsをわざわざわしく思わず、きちんと取り組みれば利益になるということを知ってもらいたい。企業が主導・主体的になると、地域の中でもっと広がっていくでしょう。まちづくりセンターでSDGsを発信することが、多くの人に認識してもらうための第一歩となるのでは」

SDGsの実現へ向けて、私たち市民ができることは何だろう。「ささやかなことを続けること。例えばスーパーで買い物をするときに、賞味期限が短いものをあえて選ぶようなことですね」と丸藤さん。小さい事だが、資源をむだにしないという点で世の中の役に立つことだ。「SDGsを知っているだけでなく、少しでも効果を出すために一人ひとりができることをしていく必要があると思います」「世の中どうにもならない」と思わずに、行動すれば、なんらかの影響が生まれ、プラスが生



じると信じて取り組むことが大事なのだ。「SDGsをおもしろがり、楽しんでもらいたい。まちづくり活動が地域で浸透したように、SDGsも市民に浸透してほしい。そのためには、一人ひとりの力が大切だと思います」

安達信彦さん（無印良品）に聞く

「感じのよいくらし」を地域と世界で

函館市本町のシエスタハコダテの1〜3階に2017年4月にオープンした「無印良品シエスタハコダテ」。衣料品から雑貨、食料品まで幅広い品揃えと、道南杉を使った木造りの心地よ



い内装で市民に親しまれている。セゾングループのスーパーマーケット「西友」（現在は合同会社西友）のプライベートブランドとしてデビューした「無印良品」は、今や日本を含む29の国・地域で900を超える店舗があり、長く使い続けられる商品の開発や、使わなくなった商品のリサイクルなど、「持続可能性」を意識したさまざまな取り組みが続いている。

「無印良品」では、インドや中国などの農薬や化学肥料を3年以上使用していない土地で育てたオーガニックコットンを、衣料品の素材に用いています。着る人だけでなく環境や生産者にも配慮した商品をお客様に届けたいと考えています。無印良品シエスタハコダテのオープンか

ら店長を務める安達信彦さんは語る。店内では1階入り口が目立つ場所にオーガニックコットンのTシャツを圧倒的なボリュームで販売しており、力の入れようがわかる。

地域のプラットフォーム

商品のリサイクルを積極的に進めるのも無印良品の特徴だ。2010年に「FUKU・FUKUプロジェクト」という形で、



あだち・のぶひこ／1978年生まれ。2001年、(株)良品計画入社。現在は同社販売部東日本エリアBブロック 無印良品シエスタハコダテ コミュニティマネージャー兼ブロック店長。東京、千葉、広島などでの勤務を経て現職。

顧客に長年愛用された服を回収し、資源として再利用する企業連携プロジェクトへの参加を始めた。回収した服のなかにはまだ着られる服があることに気が付き、2017年からはまだ着られそうなものを藍色に染めなおして、「ReMUJI」として販売している。「ものを大切にする取り組みの一つです」と安達さん。シンプルでいいものを長く使うという日本の心が詰まった取り組みだ。

もう一つ、函館など全国14か所で行っているのが、「土着化」の取り組みだ。店舗に「Open MUJI」というスペースを

設け、若いクリエイターの作品の陳列、地域の大学生の活動発表など、さまざまな展示やワークショップを行っている。函館では地元のパン屋や花屋に出货してもらうマルシェも行っている。

フォーム』として、地域とともに成長してゆきたい。安達さんの言葉から、常に変化と発信を続けたいという無印良品の姿勢が伝わってくる。

社会の将来を見通して

「まずは無印良品の店舗に足を運んでもらうこと。新たなお客様に足を運んでもらうために、函館で人気のお店に出货をお願いしたり、地域で活動している人に発表の場を提供したりしています。『地域のプラットフォーム

函館での開店から2年を過ぎ、課題と感ずることも多いと

安達さんは言う。前任地の広島では、市民がそれぞれ「お気に入りの店」を持っていた。例えば「自分は子どもの頃からこの店のお好み焼きで育った」とい

うような、ひいきの店があったという。これに対して函館の人は、新しい店ができるとわっと殺到するが、他に新しい店ができるとそちらに行ってしまう傾向があるように感じられ、そうした地域特性への対応も必要だという。

世界中の様々な国・地域において「感じのよいくらし」を提案する良品計画は、自動運転などの先端技術は少子化や高齢化が進む地方での課題解決にこそ必要と考え、自動運転バスのデザイン提供をしている。フィンランドでは現在、良品計画がデザイン提供した自動運転バスが2020年の実用化に向けて動いているという。日本発祥のカプセルおもちゃの「ガチャガチャ」からネーミングをした「GACHA（ガチャ）」だ。16人乗り、時速40キロで走るミニバスで、デジタルマッピング技術を駆使した新しい交通として期待を集め、高齢化の進む日本

に新たな可能性をもたらすかもしれない。

「世界中のさまざまな国や地域で、無印良品は『感じのよいくらし』を提案してきました。これまでの歩みが自然と、2030年に達成を目指すSDGs（持続可能な開発目標）につながっているのかもしれないですね」と安達さん。世界と地域を視野に入れて活動する今後の無印良品の動きがますます気になるところだ。



小さな行動を続けることで、世界をほんの少し変えられるかもしれない。

内閣府地方創生推進事務局が全国1797の自治体を対象に2017年に行った「SDGsに関する全国アンケート調査」(回答率38・1%)によると、自治体におけるSDGsの認知度や取り組み度合いについて以下のような結果が出ている。

①SDGsの認知度
約46%(314自治体)が認知している

②SDGsの関心度
約36%(244自治体)が関心を持っている

③SDGsの取り組み状況
約35%(242自治体)が取り組みを推進・検討している(推定、検討予定を含む)

全国的に見てもSDGsへの

使うようにしています。また、「アースデイ道南」として、「地球にやさしいくらし方」という選択肢を増やしてもらえるような活動をしています。

●11年間、服作りをしています。作ることの責任を感じながら、エシカル・サステナブルを意識して作り続けていますが、同時にジレンマもあります。作り過ぎず、買ってくれた方がずっと大切に長く着てくれる服作りをしていこうと思います。

●女子校で教員をしています。生徒にジェンダーの平等や環境問題などに興味を持たせるため、エマ・ワトソンさんやセヴァン・スズキさんのスピーチなどにふれさせています。まだまだこれからですが頑張ります。

●職場のイベントでSDGs周知のためのイベントを行います。必要な時以外ベクトルを使わなくなりました。自宅・職場の節電に努めています。日常よく使う化粧水などはオーガ

関心は50%を下回り、日本での認知度は高くはない。①の回答で「存在を知らない(今回の調査で初めて認識した)」と答えた自治体は約54%(370自治体)にのぼる。この中に函館市が含まれるかはわからないが、自治体での認知度が低いということは、各自治体で暮らす人々の認知度も低いと推定され、SDGsの概念が浸透していないと言えるだろう。

まずは身近なところから

アンケート結果からもわかるように、誰もが「SDGs」を持続可能な開発目標」と聞いて理解することは正直難しく、一体何をすべきかが見えないのかも

ニックのフェアトレード品を使っています。生活している中で、見るものを17のゴールに即して考えるようにしています。知り合いで興味がありそうな人に声を掛け、知っている人を増やしています。

●「エネルギー」原発稼働反対↓大間原発反対運動、被災者支援「ジェンダー」女性の動き易さ、男女平等↓勉強会「平和」保護主義の政治からの脱却↓政府の動きに敏感に。フェアトレード商品の購入(函館YWCAで)。要は人権!お互いを尊重すること。

●お母さんたちに、わが子に伝える性のお話の講師をしています。5番目のゴールのジェンダー平等につながるかと思っています。個々の小さなことはもちろんだけど、やはり個↓町↓市↓道・国・大きな企業から大きな動力で回していかないとけないのでは? 個が大切なのは分かるけど、正直無力さを感じて

れない。しかし、SDGsを知らなくても、日々の暮らしの中でいつの間にか、SDGsに沿った「世界を変える行動」をしている可能性はある。どんなコトやモノが「SDGs」なのかを、まずは身近なところから見つけ、地域の中で少しずつ関心を広げていくことが大切だ。

5月20日、北海道国際交流センターで開催した「第1回SDGs勉強会」の参加者に、SDGsを意識しているかどうかは問わず、自身の活動や暮らしの中で意識していること、感じていることを教えてもらった。

います。あとはメディアですね。特にテレビが無能になっている。しかしメディア頼りの人も多いから、それを逆手にとれば何とでもできそうですね。

●合意形成のための曖昧さは仕方がないと思うが、合意した以上、全世界で取り組むべきであることに疑いの余地はない。今の世の中は便利になりすぎて、何か間違っている。コンビニの24時間営業はすぐに禁止すべきだし、もっと不自由な時代に国をあげて戻すべきだと思う。

●生き方や働き方についてこれでもいいのかなあと真剣に考えている。これからどんどんSDGs勉強会などに参加したい。

●会社としてはまだ何もしていないので、これから活動していきたいと思います。SDGsのゴールでできそうなことは、5番目や17番目だと思います

●合理的配慮の考え方をSDGsとリンクして捉えられないかと思いましたが、目の前の



れなかったり、不要になったりした木材や資材を使って家具や小屋を造り、リフォームなどに

個の申し出と、社会全体の目標という違いはあるし、アプローチがかなり違う。

●野球少年に外部コーチとして指導しています。教員は慣れないスポーツを担当している比率が高く、子どもたちに悪影響を与えていると感じる。

〈その他〉

●フードバンクと子どもの貧困をなくす活動。

●ゴミの分別を細かくした。

●家庭から出るごみを少なくする。生ごみ…土に返すなど。

●プラなど、ごみが多く出る食品・商品を選ばないようにする。

●食品ロスがないように買い物をする。

●個人的には食べ残しをしない。節電に努める。

●無駄なものを買わない。他の人と平等に対話する。

●何に対してもエゴにならないようにする。

●家庭菜園で作物を育てる。できるだけ徒歩、自転車移動する。

じもじょき .net 函館 presents



じも - じょき - 塾
2019

“具体化されていない頭の中のもモヤモヤを、
そっと背中を押しつつ、でも自分の足で
立てるようにと教えていく” そんな起業講座です。

対象：起業を目指す方、複業を考えている方（性別不問）／20名

7/9（火）1回目：自分の計画を考えよう。

8/6（火）2回目：名刺を作ろう。

9/10（火）3回目：SNSを活用しよう！

10/8（火）4回目：ディスプレイ・接客について

10/26（土）Pre-Marché@ 函館大三坂オフィス

10/27（日）同上

11/12（火）5回目：プロモーション・広告について

11/30（土）Marché@ はこだて工芸舎

12/1（日）同上

12/3（火）6回目：今後の方針について

講義料：全6回48,000円

（税込・マルシェ2回参加）

講師：和泉詩織（710candle）/ 苧坂香生里（ZIGZAG社）/ 金谷貴明（イメージコネクト合同会社）

【主催】じもじょき.net 函館 【共催】北海道女性起業家支援ネットワーク事務局（（公財）さっぽろ青少年女性活動協会）/710candle / ZIGZAG社 / イメージコネクト合同会社
【お問い合わせ】じもじょき.net 函館 事務局 〒040-0053 北海道函館市末広町18-25 大三坂ビルディング2F 函館大三坂オフィス 担当：金谷
TEL：0138-84-8175 E-mail: joki.hakodate@gmail.com 申し込みサイト：https://jokihakodate.stores.jp/

こんなコト・モノがSDGs!? を感じて、知ってもらえる イベント開催 & 出店者募集！

2019年9月、SDGsを身近に感じられるイベントを函館蔦屋書店で開催します！持続可能な開発目標？むずかしそうだし、わかりにくい。そもそもSDGsを知らない…。そんな人たちにも、このイベントを通して関心を持ってもらえるように願っています。大きな取り組みだけがSDGsではなく、世界を変える行動は私たちの暮らしの中にあるということに気づき、一人ひとりの行動につながるように。北海道国際交流センターでは、この思いに共感してくださる出店者を募集しています！これまでの活動や行動がSDGsを意識していなくても、これから取り入れていきたいと思っている方、私の活動はSDGs！と気づいた方、興味をもっている方はぜひ参加しませんか？一緒に函館でSDGsを広めていきましょう！

【日程】2019年9月28日（土）・29日（日）

【場所】函館蔦屋書店 中央マルシェ

【内容】SDGsにつながる活動紹介や・食品、雑貨の販売・ステージ発表など

【対象出展者】SDGsに関心のある企業・団体・個人どなたでも！（物販可・1日のみ可）

【問い合わせ先】北海道国際交流センター
TEL:0138-22-0770 event@hif.or.jp

函館市近郊のSDGsな取り組み

どんな人たちが どんな思いで どんな活動をしているのか まずは知ってみよう。

捨てないパン屋／tombolo

自家製天然酵母・北海道産小麦・塩・水のみで作ったシンプルで味わい深いパンを販売。フードロスが出ないように、パンを廃棄せずラスクとして販売している。

<http://tombolo.jpn.org>

エシカルなものづくり／RomioRi

ハンドメイドアイテムとセレクト衣料品雑貨のお店。フェアトレード、アップサイクル、ファッションによる環境や社会へのダメージをなるべく抑えて行くことを目指す。

<https://romiori.net>

地球に優しい住まいと暮らし／ ほりのホームパートナーズ・couleur du lait

「やらないよりはまし」をモットーに、自然素材を使ったリフォムの提案や家具を製作。家具製作の際は、反りなどで建築資材としては使えない木材を使用し、おままとキッチンや学習机などの家具を製作し、地球に優しい暮らしを提案している。

洋服からエコを考える／ おしゃれな洋服の交換会

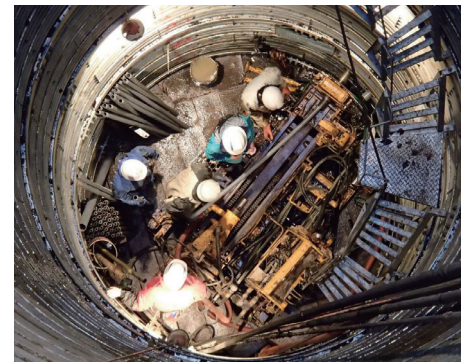
着ることがなくなった洋服や小物（ファッションアイテム）を持ち寄り、交換するイベントを年に2回（5月・10月）開催。参加者にはエコバックを持参してもらう。当日残った洋服は、国際支援への寄付に充てている。次回：2019年10月20日（日）10:00～
TEL:0138-22-0770（北海道国際交流センター）

フードバンク道南協議会

フードロスを減らす活動を行い、農業団体や企業から物資の提供を受けて、福祉団体や子ども食堂、海外ボランティア活動に届ける活動を行っている。フードバンク協議会事務局（中森）

TEL:080-1897-8749

「お客様と信頼の絆で結ばれて117年」



 株式会社 高木組

本社／函館市東雲町19番13号 0138-22-1195(代)
札幌支店／札幌市中央区大通西14丁目1番地13 北日本南大通ビル2階 011-206-4516(代)

<http://www.takagigumi.jp>

街に関する一考察



連載／第5回

・長谷山裕一

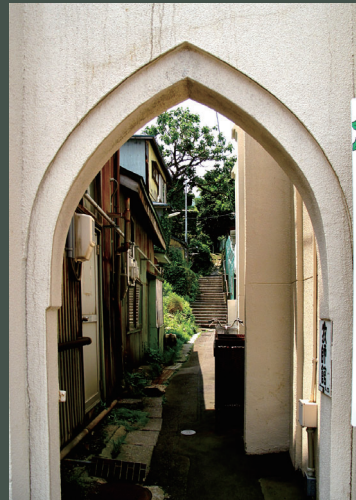
リバブル・シティ

サステイナブルと似た言葉で、リバブル (Liveable) という言葉がある。

分解するとリブ (live) とエイブル (able) となる。リブは住むこと、暮らすこと。エイブルはできること、可能なこと。併せて居住可能、もう少し意識すると「住み良い」と解釈するのが一般的である。

世界では経済の浮沈に翻弄された街を、人の暮らしのための街にしようと、リバブルシティ (住み良いまち) を創る活動が進められている。そのトップランナーを走っているのが、

デンマークのコペンハーゲンとオーストラリアのメルボルンだ。この2市の特徴は、車を中心とした都市政策から、歩行者や自転車を中心としたまちづくりに転換したことが挙げられる。車道を歩行者専用道にしたリ自転車レーンを設けたりしたほか、自動車税を高額にしている。(コペンハーゲンでは150%。100万円の車が250万円となる。) この動きの中で、ニューヨークのタイムズスクエアも



車が締め出され、人のためのオープンスペースに再生された。この施策により交通事故は60%減少し、来街者が10%以上増加したという。

これらの都市づくりに深く関わったのが、都市計画家のヤン・ゲールだ。ヤン・ゲールは、「よく観察して人を中心に計画すれば、住みやすい、持続可能で健康的な都市が、一石三鳥で実現できる」と説く。その観察

も徹底的だ。メルボルンでは、交通と人との関係を調査し、前面道路の交通量が増加すると近所付き合いが希薄となることを定量的に示し、ニューヨークでは、1万台を超えるタクシーに搭載したGPSデータを活用して、人と車の動きをシミュレートした。このような明確な根拠を基に計画を進めるが、その際には、どんな道路や建築を設計するかよりも、どんな暮らしやアクティビティを提案するかを重視する。それが人間が中心の街への再生手法なのだろう。

都市の順位を表す様々な指標に一喜一憂するのではなく、人の暮らしを中心に据え、人を幸せにする空間を多くの人の手により共創し、これからも住み続けられるリバブル・シティになるために、何ができるのか今日も考えるのである。

PROFILE

函館市生まれ。建設会社を退職後、地方公共団体に入庁。まちづくりや市民活動支援、交通政策などに従事。



浦潮逍遙

中川大介／人と水研究会

秋深まるロシア沿海州ウラジオストク市へ短い旅をした。人口60万。函館市の姉妹都市である。

朝まだき、厚めのバーカの襟を立て、ウラジオストク駅の西にあるホテルから街に出る。沿岸を北上する暖流の影響か、大気は思いのほかやわらかい。南北に街を貫くアレウツカヤ通を北上し、東西に交差するアドミラル・フォキナ（噴水）通を東へ折れる。はるかモスクワへと連なるシベリア横断鉄道の鉄路にかかる古い石橋を渡り、欧風建築が連なる街路を往く。

山坂多く道は入りくみ、渋滞の多い街だが環境性能のよい日本車が多いせいか、空は高い。

アドミラル・フォキナ通と南北に交差するオケアンスキ大通に出た。港へと下る坂道だ。見下ろせば、中央広場の革命戦士の像、その先に埠頭のクレーン、金角（ゾロトイ・ローグ）湾、さらに奥にチュルキン半島…。

さながら八幡坂あたりから函館港を見下ろしたかのようにであった。

函館ゆかりの建物

オケアンスキ大通に建つアルセーニエフ記念国立沿海地方博物館は旧横浜正金銀行。沿海地方裁判所は旧日本国総領事館。19世紀後半から20世紀初頭にかけて、在留邦人が残した建物が

中心街には幾つも残る。

中に函館ゆかりの建物がある。旧朝鮮銀行浦潮斯德（うらじおすとく）支店。現在はアートギャラリーが入るとか。屋上のドームと縦長の窓、縦のラインを強調する壁面装飾が印象的なこの建物は、銀行として使われる前は「デンビー商会」の本社だった。アルフレッド・デンビー（1879～1953）が経営したこの会社は、函館にも拠点を置き、露領漁業で隆盛した明治大正の函館を代表するロシア人資本の漁業会社の一つであった。函館のデンビー商会の設立は

オケアンスキ大通にある旧朝鮮銀行浦潮斯德支店＝いずれも2018年10月



PROFILE
岩手県生まれ。新聞記者。カヌーや溪流での釣り好きが高じて人の暮らしと水とのかわりに興味をもち、仲間と「人と水研究会」をつくって、水辺歩きを続けている。

たという。父から経営を継承したデンビーは、水産資源豊富なカムチャツカの漁場を経営した。函館で集めた多数の労働者を漁場へ送り込み、漁業資材を手配し、サケマスの缶詰、塩蔵、イクラなどを製造して欧州など

へ輸出したのであった。

しかし、1917年（大正6年）に起きたロシア革命後にウラジオストクの社屋をはじめ資産を没収され、デンビーは日本に亡命する。商会は貿易商となって昭和初期まで函館で営業

を続け、デンビーは19

30年（昭和5年）に函館市から産業功労賞を受けている。

函館市史の編纂に従事した清水恵は、「函館・ロシア その交流の軌跡」（函館日口交流史研究会、2005年）でデンビー商会の歴史を詳述し、商会が函館で果たした役割をこのように位置づける。

「缶詰工場経営にみる近代のセンスは群を抜いていた印象がある。堤商会など日本の企業家に大きな刺激を与え、

結局その発展に寄与したといえるのではないだろうか。函館に亡命した後も、海外貿易のルート作りに大きな役割を果たしたことは評価されるだろう」

海風に立つ女

ウラジオストクのデンビー商会は、前述の通りオケアンスキ大通にあったのだが、この通りはかつて「キタイスカヤ街」という名だった。和訳すれば「中国人街」。これと東西に交差するセミヨノフスカヤ通を西へ向かうと、かつて「ミリオンカ」と呼ばれたレンガ造りの一角に出る。中国人のボスが支配し、雑多な住民が寄せ集まるスラムのような街。ここに堂々と出入りする函館生まれの長身の美女を主人公に、ロシア、中国（漢族、満族）、欧米、そして朝鮮、日本と雑多な民族が集まる19世紀末のウラジオストクを活写する小説が、函館出身の作家の手で

上梓された。高城高の「ヘミリオンカ」の女 うらじおすとく花暦（寿郎社、2018年）である。

主人公お吟ことエリサヴェータ・ギン・ペトロヴァは、幼子だった1871年（明治4年）の函館大火の際、叔父に両親を殺害されて火の海の中をさまよひ、港にいたロシアの捕鯨船の船員由松に助けられてウラジオストクへ渡る。船長グリゴリー・ペトロフはお吟を現地の日本人夫婦に預けるが、夫婦は貸座敷（娼館）を始めてお吟を娼妓にしてしまう。当時のウラジオストクには長崎などから「からゆきさん」と呼ばれた娼妓が渡り、花街が形成されていた。

お吟はやがてペトロフに助け出され、ペトロフ家の養女となる。娼妓であった過去に翻弄されながらも、お吟は活況と治安の悪さで知られた世紀末のウラジオストクをたくましく生き抜く。欲にまみれた男たちとわた



鷲の巣展望台からウラジオストクの街を見下ろす

りあい、「ミリオンカ」に生きるかつての娼妓仲間を助け、また助けられ。セイブル（クロテン）の高級コートに身を包んで海風に吹かれる凛とした姿が目に見えようである。

この物語は、高城が2013年に著した「冬に散る華 函館水上警察」（創元推理文庫）に収めた「ウラジオストクから来た女」の続編とも言える作品である。作中、お吟は生まれ故郷の函館へ2度目の訪問をし、高龍寺で父母の墓に参り、こう述懐する。ウラジオストクの坂道に立ったことのある者には実

感できる言葉であろう。

「函館はウラジオストクの町とよく似ているね。まるで双子みたいな坂の町だわ。ウラジオではウスペンスキー教会がすぐ目に入るけど、函館も同じ宗派のハリストス正教会の塔が目印だ。海岸通りはにぎやかで、スヴェトランスカヤ通のようだね」

望郷の丘

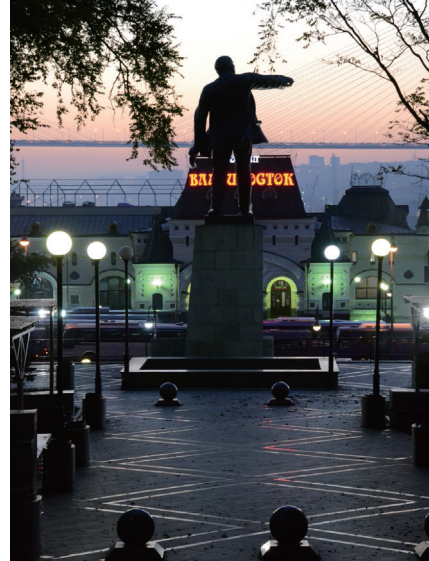
お吟の養父のペトロフ商会は、「キタイスカヤ街」の坂の

途中にあったという設定だ。どうやら旧デニビー商会よりやや山側の道路向いのようである。「へミリオンカ」の女」は日露戦争以前の話

だが、ペトロフ商会もデニビー商会と同じように、函館で労働者を集め、サハリンやアムール地方の漁場に送り込んだ、と書かれている。明治の函館や日本人の間に、極東ロシアは今ほど遠い地ではなかったのである。キタイスカヤ街の坂を上った高台にあった日本人墓地に、若き日のお吟を世話してくれた娼妓の亡きがらを葬る場面がある。金角湾とチュルキン半島を見下ろす墓地に葬られたその娼妓たちは、生前、病床を見舞ったお吟にこう懇願する。

20世紀初頭の在留邦人は6千人に達したという。多民族が混住し、活気と闇を抱えたこの地で必死に生き、命果てた者たちの望郷の念は、いまなお大気の中にこもっているのかもしれない。日露の交流史は光と影が交錯する。ウラジオストクの南、ルースキー島で見たヴァロシローフスカヤ要塞の巨大な砲身は日本の方向を向いていた。日露戦争でもやの敗戦を喫したロシアが、再度の対日戦に備えて構築した砲台である。ロシア革命でソヴィエト連邦が成立後、ウラジオストクの邦人は退去を余儀なくされ、東西冷戦の下、ウラジオストクは太平洋艦隊の基地として20世紀の終わりまで、外国人に閉ざされた軍港となる。

革命を指導したレーニンの像がウラジオストク駅舎正面の広場にあった。暁光の中で、像は東方を指さしていた。



ウラジオストク駅舎正面の広場に建つレーニン像

昔の子ども、
今どきの子ども



第十四話

ローカルルール

庄司 証／函館圏フリースクールすまいる・代表

子どもの頃に何度か転校しているのだが、その地域によって、ゲームのルールが違っていることがよくあった。いわゆる「ローカルルール」というものである。例えば、「UNO」というカードゲーム。アメリカで生まれたこのゲームはすぐに世界中で人気になり、日本は1989年に初めて発売された。

基本のルールはとても簡単で、「場」にあるカードと同じ色か同じ数字を持っていたら、順番にそれを出していき、なければカードが積み重ねてある「山」から1枚引く。それを繰り返し返し、一番早く手持ちのカードがなくなった人が勝ちになる。

わかりやすいゲームなので、

年齢問わず遊べることから、日本でも早く広まったようだ。割と多くの人が、トランプ以外で知っている身近なカードゲームとして「UNO」を思い浮かべることができないのではないだろうか。私自身も子どもの頃に、クラスの中や友達の家でたくさん遊んでいた。

そんな「UNO」だが、いまだに人気は健在で、フリースクールの子ども達と一緒に遊んでいた時のことだ。自分が思っている



ルール通りに、カードを複数枚出そうとしたところ、ある子が「そんなにはいい出せないよ」と言い出した。

子どもの頃に一度に何枚も出していた記憶があるので、「そんなはずはない」と思って調べると、公式ルールでは出せないことになっている。他にも、記号のカードや特殊なカードについて、自分が正しいと思っていたルールが公式とは異なっていることを、数十年前の時を経て気が付くことになった。

なぜ、そんなローカルルールがあったのか。おそらく、学校

の休み時間に早くゲームを終わらせるためだったり、違う年齢の子供達とも一緒に遊べるようにするためだったり、きつと子どもながらにどうやって楽しめるか、色々考えた結果、作られていったのではないだろうか。そして、その地域独自のルールが受け継がれてきたのだろうと思う。実際、世界中に様々なローカルルールがあるらしい。今では、このようなカードゲームであってもパソコン上で遊ぶことができる。インターネットを介して、リアルタイムで世界中の人と気軽にプレイすることが可能になった。それゆえにローカルルールは通用しないが、「ゲームそのものを楽しむ」という点では、公式ルールに従うことがふさわしいのかもしれない。

しかし、世界の広がりがあったからこそ生まれたローカルルールは、「仲間と一緒に遊ぶ時間を楽しむ」ために、色々考えることの大事さを教えてくれたように思う。

PROFILE

七飯町出身。北海道教育大学大学院修了。在学中から「チーフクリスト教学園」の活動に参加し、2012年「函館圏フリースクールすまいる」設立。不登校や若者の居場所支援などを行っている。

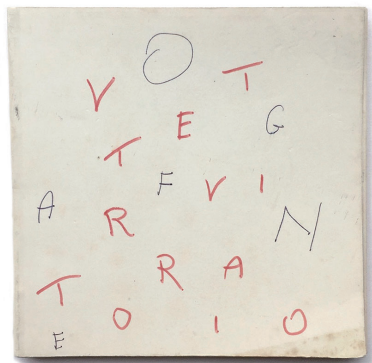
WU-BOOK

●ウー・ブックスの書棚から。

夏井俊介／ウーブックス店主



イタリアの詩人でフェミニズムの活動家トマーゾ・ビンガが表紙に直接表紙を描いた世界で1冊のアーティストブック。1976年トマーゾが45歳の時の作品、自身のノードでアルファベットを表現した詩集である。今年2月にパリのロダン美術館の庭園で開催されたDiorの2019秋冬プレタポルトコレクションの会場は、本書の写真をパネルにしてメッセージを織り込みデザインされたものだった。男性アーティストの特権への抗議として男性名を名乗り続けた女性トマーゾ・ビンガと、同じくイタリア出身でDior創設以来初めての女性アートディレクターとなったマリア・グラツィア・キウリとの、イタリア人女性2人の挑戦が時を超えてリンクした素晴らしいコレクションであった。それにしても、サンローラン、ヴィヴィアン・ウエストウッド、ポール・スミスばかり、本をインスピレーション源にしているファッションデザイナーのなんと多いことか。



「Abbecedario」(1976年)
Tomaso Binga 著

PROFILE

群馬県生まれ函館市育ち。夏井珈琲勤務の傍ら、古書販売や本に関わるさまざまなイベントを企画する WU-BOOK を運営。古今東西の素敵な本を発掘して紹介している。



監督／龍村仁

※現在、「第九番」の映画制作資金への協賛を募っています。応援したい！

今号の特集テーマ「持続可能な開発目標」は、実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」こと。また、産業革命以降急激に活発化した人間活動により、経済・社会の基盤である地球の持続可能性が危ぶまれていることとあります。この作品には、未来の世代により良い地球を残すためのヒントがたくさん隠

されています。映画「地球交響曲・ガイアシンフォニー」とは、イギリスの生物物理学者ジェームズ・ラブロック博士の唱えるガイア理論、「地球はそれ自体がひとつの生命体である」という考え方に感銘を受けた龍村監督によって制作されたオムニバスのドキュメンタリーシリーズです。美しい映像と音楽、珠玉のことばによって織り成されるこの作品は、環境問題や人間の精神性に深い関心を寄せる人たちのバイブルとなっております。1992年公開の「第一番」から2015年公開の最新作「第八番

PROFILE
滝川市出身。函館における数多くの文化事業や施設・イベントの企画運営に携わ

「まで、かつてないロングランヒット作となっています。『第一番』公開から、27年の時を経て、ついに最終章となる「第九番」の制作が始まるようです。地球交響曲集大成となる「第九番」に流れるテーマは、人間たちのシンフォニーとのこと。ベートーベンの「第九」の歓喜の歌は愛と平和、生きることへの励ましと勇気を与え続け、長く歌い継がれています。

シネマで
コーヒーブレイク
「地球交響曲・ガイアシンフォニー」
米田哲平
／函館港イルミナシオン映画祭実行委員長

食旅脳内 メモリーズ

国立大喜／パザールパザール 店主

トルコと言えば見所が宝石箱のように詰まったイスタンブールが有名だが、日本の二倍もの面積を有する広いアナトリアの大地には魅力的な地方都市も多い。自然が作り出した奇岩が美しいカッパドキアでは壺入りケバブを、夏のバカンスで国内外の人で賑わうエーゲ海沿いのイズミールでは新鮮な魚介料理を、素敵な民族衣装で踊るダンスで有名な黒海沿いのトラブゾンでは鰯料理を、東側にはノアの箱船が漂着したという謂れがあるアララット山が美しくすぐ国境を越えれば隣国はイランやアルメニアというエルズルムではジャーケバブを、南のウルファでは熱々で辛い挽肉ケバブを。東西南北に魅力的な街と美味しいものが点在している。物思いに耽りながら揺られるには丁度良いトルコの都市間長距離バス旅。個人的に好きな地方都市は山間の小さな街サフランボル。オスマン帝国時代には宿場町として栄えたが、鉄道のルートから外れ過疎化の道を辿るが歴史ある伝統的な木造建築群が並ぶ美しい街が評価され世界遺産に。小さな田舎町の子供達は笑顔がたまらなく眩しい。小さな町と思ってぐりと歩くと意外と険しい坂道が多く、懐かしさを纏った木造の宿で一休み。ほっとする味わいのサフランティ

などを味わいつつ、小さな市場を散歩。イスタンブールなどではアンティークショップも



Illustration by Tomoka Kunitate



首都アンカラからおおよそ北200キロメートルに位置する街サフランボル。街の名前は香料サフランに由来するらしい。

洗練されていたが、この街のアンティークショップは時を忘れた品々が埃をかぶって眠っていた。ちょっと邪悪な顔をしたサンタクロースのマトリョーシカがなぜか売っていてちょっと笑った。そして夕暮れの時刻に街に響き渡るモスクからの礼拝への呼びかけ合図であるアザーンの声を聴きつつトルコ式の蒸し風呂ハマムへ。こちらでも歴史ある建築。悠久の時を超えて温まり続ける風呂でしっかり温まった後は髭のおじさんの垢すり。リフレッシュしてから食したレストランの食事は絶品。ヨーグルトスープ・新鮮なサラダ・トルコピザ・羊肉ソテー、そして冷えたトルコビール。この満足感はどこかで味わったことがあると思った。日本の山間にある秘境温泉宿で温まり、地物ご飯と冷えたビールで満足したあの満足感。それと同じだとその時思った。

PROFILE

函館に生まれ、地元の高校を卒業後は岩手県の大学へ進学したのち、札幌のシンガポール料理店に就職。27歳のときにトルコへ渡航し現地の料理店で学ぶ。現在は函館市末広町でトルコ料理店を運営。

粹な大将

西野鷹志 / 文・写真

目のまえの津軽海峡の海中を高速で突っ走る本まぐろをネタに、函館ならではの地物にこだわった鮓が味わえる「鮓処 木はら」。湯の川温泉街、海峡の波打ち際にある立地に惚れこんで20年となる。

一歩足をふみいれると、清々しく凜とした空気につつまれる。青森ヒバの一枚板にこだわったカウンター、その背後にはこれもこだわりのヒノキでつくられた小型の冷蔵庫が壁面にうめこまれている。大窓からは海峡をのぞみ、晴れていれば本まぐろで名をはせる対岸の大間がみえる。

大将、木原茂信、59歳。函館市街地から一時間ほどの漁師町・南茅部の昆布採りの三男坊。ここで採れる真昆布は上浜ものとして、遠く北前船の時代から、関西、北陸へ塩昆布、おぼろ昆布など加工向けに出荷されている。兄二人は昆布漁師となったが、彼は中学卒業後、寿司屋の下働き5年をへて江戸前を学び、34歳で独立、鮓職人ひと筋で勝負して45年になる。

木はらから東へ20分ほどの戸井の浜。昔々、獲れも獲れたり、一晩でまぐろ2500本が揚がった。網元ひとつでこれだけの大漁。明治31年のことであった。古老の話によれば、まぐろの大群が沖に押しよせ、なぎさ近くまで突っこんだ。売っても、呉れても、食っても始末がつかず、ほとんどが鰯釜で煮て、肥料とか飼料になってしまった。こんな大漁が、明治と大正にそれぞれ二回あり、貯蔵・輸送手段が進んだ大正のころには、ひと漁でまぐろ成金となった網元もいたとか。一本釣りとか延縄でまぐろ一本を追いかける今の世とは隔世の感が

ある。

木はらの清々しいカウンターに座れば、大将がにぎる鮓に心がおどる。まずは、地物であふれているネタ箱からつぎつぎと。海峡の本まぐろ中とろ、海老、平目、帆立……ヤリイカに辛み大根、大将の古里・南茅部の昆布塩をふりかけた雲丹、僕のすきな芽ネギ。さらに、もうひとつ芽ネギ。



PROFILE

西野鷹志(にしの・たかし) 東京生まれ、函館育ち。タウン誌・街で「ライカは行く」を17年間連載、2012年・147回で終えた。すきなもの—フランスパンの皮、ブルゴーニュワイン、ライカM6。

「鮓処 木はら」 大将・木原茂信 2019





函館ベイエリアへ行こう

旅の楽しみといえばその土地の名所巡りと、その土地ならではのお食事やショッピングを楽しむ事。
函館ベイエリアには心に残るお食事やお買い物を楽しめるスポットがたくさんあります。



Bluemoon
Hakodate

函館市末広町 14-17
電話番号 0138-26-6161

HIF創立40周年記念シンポジウム 新たな時代の共生と日本語教育のめざすもの ～会話と対話を中心にして～

HIFでは創立40周年を記念し、以下の通りシンポジウムを開催いたします。

日本語教育に興味のある方はもちろん、ホームステイ、国際交流、多文化共生事業に携わっている方、日本語に限らず英語を始めたとした語学教育関係の方、外国人労働者を受け入れている(またはこれから受け入れようとしている)企業の方、学生の方など、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時／2019年(令和元年)7月20日(土) 13:00-17:00
場 所／函館国際ホテル(函館市大手町5-10) 2階白鳳の間
参加費／無料

[シンポジウム終了後に、懇親会(立食形式)を開催します]

場 所／函館国際ホテル 2階アクアマリンの間
時 間／17:30-19:30
懇親会参加費／1人5,000円(当日現金にて承ります。)

【申込方法】

- ①お名前、②お電話番号、③ご所属団体、④懇親会の参加／不参加を明記の上、Eメール・電話・FAXのいずれかでお申し込みください。
シンポジウムについては当日参加も受け付けますが、会場および資料準備の都合上、極力事前のお申し込みを7/10(水)までお願いいたします。

お問合せは下記まで



(一財) 北海道国際交流センター(HIF)
040-0054 函館市元町14-1
TEL. 0138-22-0770 FAX. 0138-22-0660
E-mail: info@hif.or.jp
<http://www.hif.or.jp>

激動の幕末、近代日本誕生の輝き―特別史跡五稜郭



ペリー来航によって動き出した日本の新時代。開港場となった函館に徳川幕府が築いた我が国最初の西洋式城郭・五稜郭は、幕府の最後の輝きを象徴するとともに、サムライたちの希望の星でもありました。以来、百五十余年、今も静かに函館の四季の中で輝き続けています。北の大地に刻まれた巨大な星、五稜郭と函館の歴史の移り変わりを展望台で実感してみませんか。



桜花の五稜郭



錦秋の五稜郭



雪化粧の五稜郭

五稜郭歴史
ガイドツアー
毎日実施中

展望料金に 200 円追加で、エレベータースタッフが、展望台にて五稜郭や箱館戦争についてご案内する約 30 分の歴史ガイドツアーです。毎日 9 時～17 時(冬季は 10 時～16 時)の毎時 00 分に実施中です。
☆詳しくはお問合せください☆
※ 1 回 20 名様まで。(当日以外のご予約も可能です)



最新情報は、公式ウェブサイト、Facebook
Instagram から発信しています☆
www.goryokaku-tower.co.jp



五稜郭タワー

函館市五稜郭町43-9 TEL 0138-51-4785



季刊 [アット・エイチ]
@h

SUMMER 2019

● 発行人

池田 誠 (HIF)

● 編集人

中村ひでのり

● 編集スタッフ

齊藤美悠
笹木明日香

● デザイン

中村事務所

● 撮影

saeru

● イラストレーション

小宮伸二(表紙)
国立朋佳(本文)
H.Nakamura(本文)

● サポーター会員(敬称略)

稲泉省 / 鈴木昭次 / 前岡一郎
松本百合 / 川上 納 / 田中真一
山下淳一

● 連載 & 編集協力(敬称略)

中川大介
長谷山裕一
堺 麻那

● 連載(敬称略)

西野鷹志
庄司 証
米田哲平
夏井俊介
国立大喜

[@h] 設置場所

【金店配布】ラッキービエロ/ハセガワストア/郵便局(一部)/生活協同組合コープさっぽろ/みちのく銀行/道南うみ街信用金庫/美容室アイズ

【本町・五稜郭付近エリア】函館市芸術ホール/函館市中央図書館/総合保健センター/北海道新聞社(道新文化センター)/函館YWCA/レストランバスク/ワークスコープ 茜/シネマアイリス/函館市青年センター/北海道教育大学函館校/Colz/Bees.Bee/函館短期大学付設調理製菓専門学校/クラブカット E'/おおき整形外科/喫茶Canvas/夏井珈琲ブリュッレ/ちいさなしあわせパン/G スクエア/Relotta cafe/函館園フリースクールすまいる/中島れんばいふれあいセンター/無印良品シエスタハコダテ

【函館駅前付近エリア】函館市役所/工房虹と夢/Pizzeria AMORINO/NHK/千歳図書館/サンリフレ函館/函館駅前/バス案内・待合所/函館市総合福祉センター/百間/VILLAGE

【美原・本通・中道・栲楳付近エリア】亀田支所/渡島総合振興局/Cafe en/ROYAL SKOOL/水花月茶寮/ドゥ・アンジュ/花の湯/栲楳配本所(栲楳母と子の家)/LADIGUE/珈琲物語/Pizza and BIANCHI/お総菜大地/チッチョバステッチョ/公立はこだて未来大学/文教堂栲楳店/三省堂/タイヤ館函館本通店/亀田公民館/わっとな/ファイヤービッド/おしま地域療育センター/函館鳥屋書店 FUSU/スプリングボードユニティ21

【西部地区エリア】北海道国際交流センター(HIF)/Pain屋/ふるる函館/MOSSTREES/金森赤レンガ倉庫/FMいるか/バル・レストラン・ラ・コンチャ/甘味茶房花かんろ/Old Miss 菊/ギャラリー村岡/金子眼鏡店/カフェやまじょう/ロシア極東連邦総合大学函館校/Cafeteria Morie/函館市女性センター/はこだて工芸舎/函館市公民館/函館市地域交流まちづくりセンター/ROMANTICO ROMANTICA/Select Coffee Shop Peacepiece/和雑貨いろは/カフェ三日月/箱館元町 珈琲店/パザール・パザール/Cafe Classic/Cafe & Deli MARUSEN/カフェ D'ici/SMALL TOWN HOSTEL Hakodate/tombolo

【五稜郭駅・昭和エリア】Beauty Concierge AOKI/こじまキッズクリニック/港図書館/タマツ電機/北海道大学水産学部/函館市亀田青少年会館/Seak

【山の手・湯の川・旭岡付近エリア】旭岡図書室/銭亀沢支所/函館市民会館/湯川支所/湯川図書室/函館大学/函館短期大学/函館工業高等専門学校/花園温泉/カット&クリニックたかすぎ

【北斗市エリア】北斗市役所/かなで〜る/LEAVES/しんわの湯/北斗市スポーツセンター/北斗市公民館/久根別住民センター く〜みん/七重浜住民センター れいんぼー/Coing

【七飯・大沼エリア】こなひき小屋/ななえ天然温泉ゆうひの館/七飯町文化センター/大中山コモン/レストランビノ/宮崎鯉屋/南北北海道大沼婦人会館/カントリーキッチンWALD/大沼国際交流プラザ/ネイバル森/foufou/Studio Lumier/七飯町役場/大沼国際セミナーハウス/おお製パン

● [@h] はおおぜいの方々のボランティアによって支えられています。安定した運営のため、広告の掲載、または協賛して下さる方(サポーター会員)を募集しております。年会費は一口、団体/¥10000、個人/¥3000です。みなさんのご理解とご協力、よろしくお願いします。なお、広告の掲載料につきましては事務局までお問合せください。

● 編集部では読者のみなさまからのご意見・ご感想、さまざまな情報をお待ちしております。お気軽にお寄せください。ご協力よろしくお願いします。

[@h] 編集事務局

TEL 0138-22-0770 FAX 0138-22-0660
E-mail volut@hif.or.jp <http://www.hif.or.jp/volut/>